

私は昭和 38 年 11 月 25 日に石塚家の 4 人姉妹の長女として命を授かりました。私が 2 歳の頃、40 度の高熱を出し、ひきつけを起こし、てんかんという病気になりました。妹たちができた時、妹たちには病気が遺伝せず、「なんで私だけこんな病気なのだろう。」とひねくれた思いもありました。また、一番上の妹は、みんなから目が大きくて愛嬌があり可愛いといわれ、3、4 番目はしっかりしているなどといわれていたので、「どうして私だけはこんな風なのだ、神様は不公平だ。」とっていました。

小学生の時、1 年生の時から、先生をはじめみんなからいじめられてきました。いじめがあったので、人と接すること、話すことが苦手になりました。神様なんかいないと思うようになりました。その後、中卒で仕事に就き、妹たちは独立していたので、両親がいなくなったら、私は一人でどう暮らしていけばいいのか不安がありました。そんな中、友人のお兄さんの職場の人と知り合い、気に入られプロポーズされたので、仕事を退職して結婚しました。

てんかんがあると、子供を産めば産むほど自分の命に危険であることを結婚してから知りました。でも、主人の子供がたくさん欲しいという願いをかなえてあげたく、6 人の子供を授かりました。しかし、だんだんと子育ても家事も自分には難しくなり、主人は私に冷たくなっていき、ひどい言葉を浴びせるようになりました。家族団らんというものはありませんでした。主人は、家を建てるのに私の母がくれた土地を不動産の人にだまされ、借金を負わされるようになりました。主人には愛人ができ、私は、家を追い出されました。

いざひとり身となり、寂しさと将来への不安がありました。本当に育児は大変なものでしたが、子供たちに母親らしいことをしてあげられなかったことが後悔です。そんな時、わかたけ社会センターグループホームを紹介してもらいました。2007 年の時でしたが、私はわかたけグループホームに連れて来られてよかったですと思います。井上ナオミさんの紹介でこのみふみバプテスト教会に来るようになりました。教会学校、礼拝に出るようになり、イエス様のことを知るようになり、興味がわき、求道者クラスの学びをするようになりました。

その学びの中で、私はイエス様からの救いを感謝して受け取ることができました。ここで詳しく語ることはできませんが、私は神さまが喜ばれない罪を犯し

てしまったこと、また今も犯してしまうことがはっきり分かります。そんな私に関わりを持ち、助けてくださった教会の兄弟姉妹たちと、私の罪の身代わりとして死んでくださったイエス・キリストに感謝します。徳田牧師夫妻と 2011 年 5 月 14 日、イエス様を救い主として受け入れる祈りをしました。

続けてバプテスマクラスで聖書を読んでいくうちに、いくつか教えられたことがあります。まず、「小さい事に忠実な人は大きな事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は大きな事にも不忠実です」(ルカ 16:10) が心に残りました。職場の惣菜屋さん「はつ味」で仕事をしている私は、帰ってきては、たけのこの職員にグチばかり言っていました。しかし、そんな事をしていても何にもならないし先へも進めないことに気づかされました。また、「何をするにも人に対してではなく主に対してするように心からしなさい」(コロサイ 3:23) から教えられたこともあります。人は人、と気持ちを切りかえて、できない人の分も、私がどんどん仕事をしていけばいいのだと思い、一人ではつ味を背負った気持ちで仕事を頑張れるようになりました。「どんなに苦しくてもイエス様がそばにいてくれる」と思っただけで、何でも気楽にできるようになりました。

また、神様がいつも私の傍にいることを知り、寂しさからも救われました。寂しいと思った時も教会に来れば、主にある兄弟姉妹がいるというだけで元気になります。まだ悩むことが多く、人間関係もうまくいかないこともあります。神様からの試練なのだと思うようになりました。教会に来るとまた一週間頑張ろうという気持ちになります。今までの私の人生はとても暗いものでしたが、イエス様に出会えて、自分が少しずつ変わってきていることが分かります。イエス様のことをもっと勉強して、バプテスマを受けて、心からのクリスチャンになりたいと思います。また、これからも神さまに従って生きるために、日曜日の礼拝を大切にしたいと思います。